

石仏散歩

No.119

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2024年3月25日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石仏散歩

新発田市藤塚浜の寒念仏資料

新発田市 鈴木 秋彦

新発田市の紫雲寺地区の稲荷岡から藤塚浜に向かい、集落のカミから入った左手(海側)に「地蔵大権現堂」が建っている。堂内には石製の地蔵尊がまつられている。佐渡から運んだ地蔵で、藤塚浜は遠浅のため、沖に大きな船を停泊し、小さい舟に乗せ換えて「下の浜」に揚げて堂のところまで運んだものと伝えられている。地蔵は本体と台座を含めて四つの部分を組み合わせるようになっていて。現在は女性たちによって、村のカミはこのお堂で毎月二十三日に念仏が唱えられ、村のシモでは二十四日に別の場所で行っている。

現在のお堂は平成九年(一九九七)九月十五日に、本間謙太郎氏の敷地を借用し、賛同者が出資し、魚野正義氏が棟梁として建立したものである。魚野氏が賽銭箱の下の方板をはいだところ、下から次のような石碑を発見した。凹凸部分は整形し、現在は縦四〇、横二一〇、幅一五センチメートルである。

右から縦書きで次のように刻まれている。「」は改行を示す。「地蔵尊形像一基／施主／寒念佛講中／藤塚村／衾五郎／多郎兵衛／四郎兵衛／藤次郎／嘉平次／彦三郎／嘉市／重助 妻太／内世話人 嘉市／安政二卯年六月／結之／此刻石工／佐渡國加茂

郡／河崎村／半五郎」安政二年の干支は乙卯で一八五五年である。

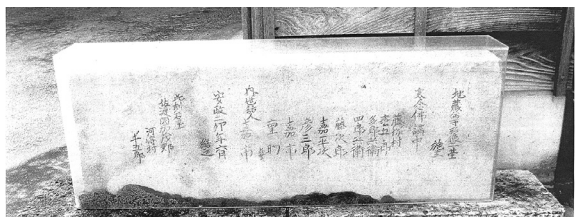
世話人のひとり宮森仁市氏が、石の彫りが浅いのので、読みやすいようにと顔料で上書きした。また石材が柔らかいため、風雨に耐えられるようにと、透明の亚克力板で覆いを作って奉納したもので、お堂の入口の左側に置かれている。

『新潟県の地名』(平凡社)の「河崎村」には天保九年(一八三八)の村書上には石工が一名いたとし、廻船業も盛んであったと記す。この地蔵尊の施主が「寒念佛講中」であることが、北蒲原の分布を押し上げることになる。

調査にあたり田辺満幸氏、小林豊男氏、魚野正義氏にお世話になりました。



地蔵大権現堂内の地蔵尊(藤塚浜)



「寒念佛講中」銘を刻んだ石碑

ごく身近にあった平安の記録

―角田浜周辺の歴史と石仏を訪ねて―

新潟市 渋川 綾子

昨年の十月十二日に訪ねた角田山周辺は、新潟とは思えない地球の造形力を見せつける景観と、古代から中世につながる歴史の足跡が、それほど広くない地区にぎっしり印されていた。一年に十回以上は走る道沿いで、それなりに土地勘と知識があるつもりだったが、とんでもない、次から次に案内してもらった初めて見る光景と、その背後にある物語に驚くばかりだった。行く先々で出会った石仏も、そこにしかない珍しい造型や、どこの道端にも佇んでいそうで、見る人をほっこりさせるものが数多くあり、あらためて石仏の時空を超える情報伝達力に気づかされた。誰が、どんな想いで石仏を創り設置しようとしたのか？その仏は長い間、何を見つめてきたのか？答えのない問いかけに浸る自分時間も楽しかった。

この日の圧巻は、角田岬の足元で海面に口を開けた「判官の舟隠し」と、その近くの高い崖の底部が海蝕された「七面天女岩屋」。いずれも海底山脈が隆起した後、波の



判官の舟隠し(角田浜)

浸食で形成された奇観。あたりは山岳信仰の修行の場だったと、ツアーの企画を主導した方から教わる。

七面天女が祀られている暗い洞窟内には夥しい数の石積みが散在し、伝承によれば亡くなった子どもの霊が石を積み賽の河原なのだという。そんな言い伝えを信じなくなるほど、屹立した崖が迫る空間に強い霊力を感じた。浜から洞窟に至る道は狭



七面天女岩屋の賽の河原(西蒲区角田)

くて長い。子を失った親が幼な子の面影を追いかめ、昼でも暗い獣道をひたすら辿ったのだろう。このひっそりとした洞窟がある角田浜は、日蓮が佐渡配流の途中、強風に遭い漂着した場所でもあった。その時、日蓮は岩に題目を刻み、七つの頭がある大蛇を教化し、大蛇は七面天女になったという。こうした事績を伝える洞窟の入口に日蓮の像が立ち、奥に七面天女を祀る祠があり、日蓮宗の聖地として崇められている。近くにいながら全く知らなかった。なお、この海側の砂丘には平安から中世の遺跡が多く、九つの寺院があったと伝わると当日の配布資料に記されていた。

旅の最後に、つくづく納得したことがあった。約千年前に製作された「康平寛治図(こうへいかんじず)」という越後国の古地図がある。そこには弥彦・角田丘陵が海上に突き出し、新潟平野は大きな入江として描かれている。現在の地形から想像もできない内容から地図の信憑性が疑われていたが、近年の研究で史料価値が評価さ



印象に残った石仏(如意輪観音と軍人)



萬福寺門前にて(参加者22名)

れつつある。今回、角田山山麓をつぶさに訪ね、この地域が古地図のように水没することなく、少なくとも千年前から人びとの暮らしが営々と続いてきたことを実感した。同時に古地図が信頼に足る史料であることを確信できた。

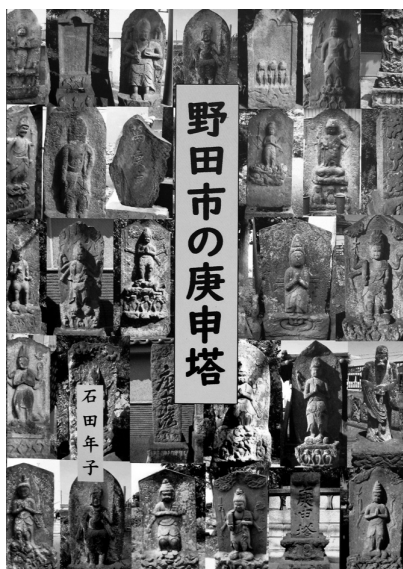
現地探訪に勝る教科書は無し！ですね。

寄贈図書紹介

このほど日本石仏協会の前会長・坂口和子氏を介し、石田年子氏のご労作『野田市の庚申塔』(B5判・四一六頁)が当会に寄贈されました。

著者は佐渡市相川のご出身で、現在はお住いの千葉県野田市の文化財保護審議委員であり、日本石仏協会理事を務める石仏研究者です。『日本の石仏』にも優れた論文・調査報告を数多く手がけておいでです。

本書は野田市の庚申塔八五〇基を写真入りで網羅した悉皆調査報告書ですが、驚くことに喜寿を前に独力でこの偉業を成し遂げられたことに深甚の敬意を捧げるものです。当会所蔵の一冊としてここに紹介し、石仏調査報告書の手本としてご活用をお勧めします。



事務局だより

◆上越地区見学会のお知らせ

日時 4月29日(月・祝)

9時30分～16時

テーマ 名立川流域にたたずむ石仏を訪ねて

集合 ①9時30分 マルケー・石橋バスセ

ンター(参加者には別途案内)

②9時35分 JR直江津駅南口ロー

タリー

見学地

①稲取(盗)り地藏尊、②岩屋堂観音

堂の石仏群、③常泉寺の二十三夜塔、

④折居の石仏群、⑤善興寺の石仏群、

⑥岩尾の石仏群、⑦道辺の石仏たち、

⑧八幡神社の一石六地藏尊、⑨一石

二体の六地藏尊、⑩機雷爆発の慰霊

昼食

名立公営施設「ろばた館」

解散

参加費

16時(集合場所に帰着解散)

定員

申込み

5000円(バス代、昼食代、資料代、

保険代等を含む)

20名(マスク着用を願います)

4月15日(土)締切り(先着順)

上越事務局 栗間啓志まで

(携帯電話かEメールで)

電話 090・7803・2428

Eメールアドレス

white-angel-wings.1405@docomo.ne.jp

◆令和6年度総会のご案内

今年度総会を左記のとおり開催します。ぜひご参加ください。出欠は同封ハガキにて5

月14日(火)までに返信願います。

日時 5月19日(日)13時～16時30分

会場 ながおか市民協働センター

第1～第3協働ルーム(アオーレ長

岡西棟3階)

第一部

公開講演会(13時～)

「雪国の暮らしと信仰―十日町市周

辺の年中行事から―」(仮)

講師／高橋由美子氏(十日町市博物

館学芸員)

第二部

総会(14時40分～)

令和5年度事業報告・決算報告

役員改選について

令和6年度事業計画・予算案

第三部

懇談会(16時～)

※懇親会は差し控えます。

◆『石仏ふおーらむ』15号の原稿を募集

6月刊行予定の本誌への原稿を募集しま

す。日頃の調査研究の成果をはじめ、石仏に

関わる小報告など、ぜひお寄せください。

執筆希望の方は事務局まで連絡願います。

◇30周年記念事業が

無事終了しました

会報合本の刊行、記念の公開座談会、そし

て県内七会場での巡回写真展と長く続いた

記念事業が滞りなく終了しました。

皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

お願い 今年度の会費未納の方には振替用

紙を同封しました。至急納入願います。

編集後記

新潟での巡回写真展は、大寒波・地震・イ

ンフルエンザと大変な災害等に見舞われ、

思うように動けなく残念でした。会場の

「みなとびあ」の皆様には、たくさん助けて

いただき、多くの来場者に見てもらったこと

ができました。感謝申し上げます。

来年度、皆様とまたお会いできることを

楽しみにしております。

下越・新潟地区事務局 堀内 正子

本号編集担当 下越・新潟地区事務局